

水循環施策の推進に関する有識者会議（第3回）

議事概要

日 時：平成31年4月24日（水）15:00～17:30

場 所：中央合同庁舎4号館1階108号室

【議事次第】

1. 開会
2. 内閣官房水循環政策本部事務局長挨拶
3. 座長挨拶
4. 基本計画の見直しに資する委員からの話題提供
5. 基本計画の見直しについて
 - (1) 次期計画期間に重点的に取り組む内容
 - (2) 水循環の目指す姿
6. 閉会

【内閣官房水循環政策本部事務局長挨拶】

（佐藤事務局長）

- ・ 本日は、前回の有識者会議に引き続き、有識者の皆様方より、水循環基本計画の参考となる取組や知見をいただき、水循環基本計画の見直しの参考にさせていただく。また、次期水循環基本計画において重点的に取り組む事項と、水循環の目指すべき姿について、様々なご意見をいただきたい。

【座長挨拶】

（沖座長）

- ・ 徳仁親王が著された「水運史から世界の水へ」を読ませていただいた。社会の様々なことに水問題が繋がっており、水循環を健全にすれば社会が益々よくなるとの願いが込められているのではないかと感じた。そういうお気持ちを実現できる次期水循環基本計画ができるよう、この有識者会議でインプットできればと思っている。

【意見交換の概要】

4. 基本計画の見直しに資する委員からの話題提供

1) 水循環施策の推進に関する有識者会議話題提供（石田委員話題提供）

（沖座長）

- ・ 流域マネジメントの活動を持続可能にするため、流域水循環協議会の経済基盤を整えることは大事である。それには商売の才覚を持つ人やグループ、失敗を許す仕組みが求められると思う。水循環の健全化と事業の両立を促すため、望ましい規制緩和や法律、制度があればご示唆いただきたい。

（石田委員）

- ・ 水辺の親水空間は、商業的な価値を見いだせるところも非常に多いのではないかとと思われる。また、小水力発電については、1箇所では難しい場合でも、地域内の複数箇所をまとめるなど事業スキームを工夫することで、持続可能性を生み出せるのではないかと考えられる。

（山口委員）

- ・ 資料の4ページ目に記載された「活動の受益者をできるだけ特定し収入方策を具体化」について、水循環の取組は関係者が広範囲に渡るため、受益者をいかに特定すべきかお教えいただきたい。

（石田委員）

- ・ ここでは、「受益者」は、最終的に利益を受ける主体と、ニーズを踏まえてビジネスを行う主体、の2種類の主体を指している。ビジネスについては、民間企業が様々なアイデアを持っており、公共空間を用いてビジネスしたいという動きが生まれれば特定できる可能性があると思う。

（笹川委員）

- ・ 収益を得る方法について、水循環の視点からふさわしいかどうかを判断することが求められるのではないと思う。まちづくり等において、単に開発資本が入るのではなく、その地域にふさわしい形で徐々に自立していく事例があれば、体制のつくり方や、それを行政が後押しするときに有効なことがあればお教えいただきたい。

（石田委員）

- ・ 先行事例を踏まえると、地域の方が担い手となることが非常に重要であると思われる。資料の2ページで紹介した事例は地域の方が担い手となっている。まず地域の方が立ち上がり、次に外部の専門家が熱意を踏まえてアイデアを出していくことが多いように思われる。一方、国内に基盤をもつ民間企業についても、地域の中長期的な発展のためにある程度利益を還元していくことへの理解や意識が高いのではないかと考えられる。

2) ソトコト編集長の水循環論（指出委員話題提供）

（沖座長）

- ・水を食と結びつけてまちおこしをすることには抵抗感があったが、紹介された福井県大野市の食のイベントから、やはり食の効果は大きいと感じておられるか。

（指出委員）

- ・このイベントは源流のほとりで開催したため、説得力がある。こんなにおいしいものがこの水のおかげでつくられていることが目の前で学べるので、食の体験としては良いと思われる。

（佐藤事務局長）

- ・高知県津野町に全国各地から来られた約20人を「まちづくりディレクター」として育成されたことに関して、まちづくりディレクターは元々意欲のある方がなられているのか。また、どのように育成して地域に送り出されているのか。

（指出委員）

- ・まちづくりディレクターのなり手は、自分が関わることのできる（これを「関わりしろ」と呼ぶ）等身大の町を探している方が多い。育成に関しては、地域をどう見て取るかという編集の方法を伝えている。良いところばかりでは他の地域との差がつけづらいので、良いものと課題を掛け合わせたりつなぎあわせたりする「地域の編集者」を育てることで、町や場づくりのディレクターが生まれ育つと考えている。

3) 次期水循環基本計画案作成に向けた話題提供（武山委員話題提供）

（沖座長）

- ・本来の意味の統合的水資源管理は、水と土地をまず一体として管理しようということから始まったと認識している。受益者が非常に広い場合は税金で確保することになると思うが、例えばいわゆる森林環境税は水の保全に充当されるのか。充当されないとしたら、みんなが、水環境、健全な水循環と防災、森林保全、農地保全を含めたところに少しずつ払うように世の中を変えなければならぬと思うが、なぜそれが変わらないと考えられるか。

（武山委員）

- ・先ほど石田委員が、あるべき姿の一つを示されたと思う。例えば、愛知県の土地改良区が長野県の水源地を購入され、管理の資金を提供する仕組み等が挙げられる。下流域に資金力があり、かつ水が脆弱という条件があれば、県域を越えてでも水源を守らなければならない、そこにお金を出さなければならないという理解が非常に得られやすいということは今でもあり得ることだと思う。
- ・一方で、人口が減少し、経済活動も非常に厳しい地域では、自分の地域を守るだけでも精一杯だと思われる。そのような地域では、森林や水源を守るというよりは、災害のリスクを減らすことの方が、税金を充てることへの理解を得やすいかもしれない。

(古米委員)

- ・都市と農地の公的管理については、市町村をベースに議論されている。一方で、水循環の施策は流域単位や地域全体で取り組まなければならない。水循環の施策を行政単位で取り組むことには限界があるのではないか。

(武山委員)

- ・地方が非常に難しい状況を迎えているなかでは、国のイニシアチブは非常に重要ではないかと感じる。流域単位で国や県が調整してくれる何か新しい枠組みや、主導的に調整できる組織が求められているのではないかと思う。

4) 河川環境に関する情報の視覚化 (吉富委員話題提供)

(沖座長)

- ・大学生の皆さんの興味について、吉富先生が意外に思われた発見があれば教えていただきたい。

(吉富委員)

- ・指出委員が先ほど述べられたように、食文化に興味を持つ大学生は多い印象を受けた。また、ダムに全然興味を持っていなかった大学生が、現地を訪問して自分の生活とダムの関係に気づいたり、ダムに興味を持ったりすることがあった。石で絵を描くなど川の様々な材料を使って創造的な活動が始まることも面白いと感じた。

(沖座長)

- ・展示する側にいる大学生が準備の過程で育つことは理解できるが、展示を見る側が展示する側に回ったり何か行動を起こしたりするなど、展示をつくる側と展示を見る側の境界を薄める動きや取組はあるか。

(吉富委員)

- ・現在行っている巡回展示では、巡回先の方々が未完成の部分を補うなど、展示づくりにも参加いただく形が生まれてきている。また、展示を見られた方のなかには、展示内容に関心を持ってくださる方もおられるので、そのような方につくる側に参画していただく機会をつくっていかないと考えている。

(笹川委員)

- ・水循環は捉えどころが難しいので、生き物やダムなど、何らかの入り口を介して水循環につなげるのではないかと印象を受けた。水循環そのものを展示するのはハードルが高いとお考えか。

(吉富委員)

- ・自分との関わりのあるものから入っていくことが、入りやすく興味も広がりやすいのではないかと考えている。水循環の全体像を見せることは重要と考えており、どう表現できるかを模索しているところである。

5) 持続的水利用に関する研究紹介（古米委員話題提供）

（沖座長）

- ・環境に限らず、良いサービスのために多少コストを負担することを多くの方々が受け入れてくれれば、もう少しいろいろなことができるのではないかと思うが、いかがか。

（古米委員）

- ・きれいな川やおいしい水が比較的少ない追加負担で実現するならば、許容する方々が多いのではないかとの印象を持っている。研究成果のさらなる精査が必要だが、定量化した複数のシナリオを示して相対比較してもらうことで、地域にとって興味深い結論を導ける可能性があると考えている。

（笹川委員）

- ・雨水を水源として位置づけて「見える化」されたことは、初めてではないかと思われる。雨水貯留による治水効果も合わせて検討されていけば、本研究が政策や民間投資に与えるインパクトが更に大きいのではないかと思われる。

（古米委員）

- ・雨水利用の観点で、荒川流域の全ての住宅に雨水貯留施設を設置した場合の費用便益分析を行った。しかし、雨水を貯留することによる浸水被害の削減効果までは検討していない。

6) これからの水循環施策について（滝沢委員話題提供）

（沖座長）

- ・技術を持つ職員の人数を維持するというのは非常に重要だと思う。現在、どのような取組がなされているのか、あるいは欠けているのはどのような取組か。

（滝沢委員）

- ・特に取組はなされておらず、実施すべき具体的な取組が見えてきたという状況でもないと思われる。近年地方自治体の職員数が全般的に減少しているなかで、公営企業会計である水道事業に携わる職員数についても、あわせて減少してきている。また、これまで料金の値上げが据え置かれてきたが、人件費を減らすことでコストの増分が抑えられてきたのではないかと思われる。

7) 水辺の都市づくりと今後の課題（保井委員話題提供）（ご欠席のため、事務局より説明）

5. 基本計画の見直しについて

（1）次期基本計画期間に重点的に取り組む内容

（山口委員）

- ・流域マネジメントの「質の向上」は重要であるが、具体的にどのような状態が「質の向上」なのかを

分かりやすく示すと良いと思う。「質の向上」の具体的なものとして、より様々な分野で取り込まれている、効果がより大きい、より持続性が確保されている、知名度が高い、地域からより積極的な支持が得られている、等が考えられる。

(古米委員)

- ・地下水マネジメントと流域マネジメントとの関係を整理しておく必要があるのではないか。
- ・次期基本計画期間に取り込まれる内容を把握するため、次期基本計画には記述されない具体的な方法論や作業内容についても確認したい。

(吉富委員)

- ・「健全な水循環による次世代への豊かな社会の実現」に掲げられた分野の関係を具体的に示していただきたい。例えば、教育に関する「水循環に関する教育の推進等」と「人材育成」の各分野の対象者や場所、実施内容などの具体的なイメージが示せると良い。

(武山委員)

- ・流域マネジメントの質は非常に重要であると思う。質の高い水循環計画に関するコンセンサスをつくり上げていく必要があると思う。多くの地域住民や関係者が参画すれば「良い計画」であると捉えられがちであるが、本来は適切な水循環が実現される計画が「良い計画」であると考えられる。例えばこのような点が整理される必要があろうかと思われる。
- ・大規模自然災害時に重要な水インフラの被害を防止・最小化する必要があることは理解できるが、それだけではなく、大規模な自然災害が生じないように備えることも水循環基本計画で取り込まれるべきではないか。

(滝沢委員)

- ・流域連携の推進は非常に重要な施策だと思うので、より具体化していただきたい。今後の社会を見据えた流域連携のあり方を模索すべき時代に入ってきていると思う。良い事例ないし将来に向けた記述をお願いしたいと思う。

(指出委員)

- ・流域連携の推進は、「流域マネジメントによる水循環イノベーション」だけでなく、「健全な水循環による次世代への豊かな社会の実現」に関連する「まちづくり」等にもつながると思うので、流域連携の推進による効果を「重点的に取り組む内容」の各々の柱のなかに適切に記述していただきたい。
- ・「健全な水循環による次世代の豊かな社会の実現」に掲げられた国際貢献については、日本が胸を張って取り組めることと考えられるので、国際貢献に関する文言が「状況」欄にも記載されると良いのではないかと思う。

(笹川委員)

- ・国際貢献は、労力が求められるが、国際社会からフィードバックや評価が得られたり、お互いの取

組を比較できたりするなど、国内の取組の後押しにつながるのではないかと。国際貢献に関するポイントを分かりやすく示すと良いと思う。

- ・複数分野に跨がる領域はあると思う。具体的な方策や取組を挙げていくことで、重点化する意義や今後の進め方が見えやすくなるのではないかと。

(石田委員)

- ・現行の水循環基本計画では取組可能なところから実施していくというスタンスであったかと思うが、今後は、本来あるべき部局間連携、地域間連携が推進されなければならないと思う。それを実現することは相当大変であるため、流域マネジメントのような大きなことを小さいところから進めるためのアプローチを戦略的に考えるのが良いと思う。
- ・官民連携については、現在潮流の一つとなっている地域的な総合会社の設立を念頭に、次の5年間に小さな成功体験を積み上げるとともに、将来的なあるべき姿を示すことができれば、現実感がある水循環基本計画になるのではないかと。

(沖座長)

- ・例えば「水の日」を盛り上げるための取組として、タイの水かけ祭りのようなイベントを都心の公園などで開催し、それに触発されてハロウィンのように全国各地で水かけ祭りが行われるようになれば、広がりができると思う。
- ・水循環基本計画の目的は、水インフラの被害を減らすことではなく、健全な水循環、安全な日常、上質な水サービスの維持である。壊れないインフラをつくることが最終目的ではないことが読み取れるようにする必要がある。

(2) 水循環の目指す姿

(吉富委員)

- ・図中の白字が人の活動、青字が水の機能を表しているが、人や水のイメージを感覚的に分かるようアイコンや記号で表すことを考えてみてもよい。

(古米委員)

- ・水循環のプロセスである「降水」、「浸透」、「蒸発散」は記載されているが、「流出」というプロセスが表流水としか記載されていない。水循環の基本的なプロセスとして「流出」の記載があればバランスが良いと考えられる。
- ・水循環の目指す姿だけでなく、現在どこが問題なのかが分かる図を作成することも大事ではないかと思う。

以上